

リージョンがどのようにしてCARに関する良心を集めていくか

- ・ 2012年のWSCで、「**あなたの地域では、WSCの議題に関してどのようにグループの良心をまとめますか？**」という質問をしました。回答は非常に多様でした。多くの地域は、この質問を「WSCの議題についてどうやって情報を得ますか？」という意味で受け取ったようです。それでも、受け取った112件の地域報告のうち、60件以上が地域としての良心のまとめ方について具体的に答えていました。

その内訳は、おおよそ以下の通りで、

- ・ グループ単位での集計
 - ・ 何らかの形式の地域アセンブリー
 - ・ エリア単位での集計
- がほぼ同じくらいで、最後のエリア単位はやや少なめでした。

具体的な数字は：

- ・ グループ集計 … 18
- ・ 地域アセンブリー … 14（アセンブリー内でグループ集計を行う場合は上記に含む）
- ・ RSC … 4
- ・ エリア集計 … 16
- ・ 個人メンバーの集計 … 7
- ・ 地域代表（RD）のみ … 3
- ・ WSCの議題は扱わない … 3
- ・ ゾーンを通じて … 1

報告にはさらに以下のような詳細も含まれていました：

- ・ 一部の地域では、グループによる不在投票やオンライン投票を認めている。
- ・ 一部の地域では、RSCに誰でも参加できるオープンな形式をとっている。
- ・ WSCに追加の議題が出た場合に備えて、RSCで代表に信任投票を行う地域もある。

伝統 2 私たちのグループの目的のための最終的権威はただ一つ、グループの良心の中に現れる愛なる神である。私たちのリーダーは奉仕を任されたしもべにすぎず、彼らは決して支配しない。

「私たちがサービスを行う場合、それが、個人としてか、グループとしてか、あるいはコミティ（委員会）やサービスボード（サービスの役員会）としてかはともかく、そのサービスの方向付けは自分で理解している神によって示される。私たちが一体となって協力するときにはいつでも、この愛なるハイヤーパワーの存在を頼り、その導きを求めている。すると私たちのあらゆる行動の中に方向付けが示される。」 （なぜ どのように効果があるのか 伝統2）

伝統 9 NAそのものは決して組織化されてはならない。しかし、サービスの機関またはコミティを作ることができる。これらの機関は、グループやメンバーからの付託に直接応えるものである。

「グループは、自分たちへのサービスのために作られたボードやコミティと情報を共有し、指針を求める。一方、ボードやコミティは、グループに対して、活動状況、話し合いの内容、計画などを報告する。グループからゆだねられたことにこたえる責任を持つサービスボードやコミティは、グループに直接影響のあることについてはグループの意見を聞き、まだ方針として固まっていないことについては、グループに指示を求める。…できることなら、組織的なサービス活動とグループをはっきり分けて考えるべきだ。そうすればグループは、アディクトからアディクトへメッセージを運ぶと言う第一の目的を、シンプルかつ明快に果たすことができる。ボードやコミティを作るのは、必要性だけを考えた結果であるため、その指針はできるだけシンプルなものにしている。」 （なぜ どのように効果があるのか 伝統9）

概念3 NAグループは、サービス機構が課せられた責任を果たすために必要な権限をその機構にゆだねている。

「NAグループが設立したサービス機構の最終責任と権限はNAグループが保持している。とはいえ、あらゆるサービスボードやコミティに代わってグループが意思決定に直接関わるべきだとしたら、ミーティングの場で回復のメッセージを伝える時間やエネルギーはほとんど残されていないだろう。したがって、サービス機構がグループから課せられた役割を実行するには必要な意思決定をする権限もサービス機構に委ねられている。」

（NAサービスのための12の概念 概念3）

概念 6 グループの良心とは、愛なる神のはたらきが私たちの決定に示されるよう心を開くスピリチュアルな手段である。

「仲間のメンバーたちが話していることを、言葉だけでなく、その言葉の背後にある精神にまで耳を傾けるとき、私たちは概念6を生かしている。また、自分の意思ではなく、神の意思が行われるよう求めるとき、そしてサービスの決定をするなかで、自分のためではなく、ほかの人たちの役に立とうとするとき、私たちは概念6を当てはめている。グループ、サービスボード、コミティの中でサービス関連の意思決定をする前に愛なる神に答えを求めるとき、私たちは概念6を生かしているのだ。」

（NAサービスのための12の概念 概念6）